

第三回淡水ガメ情報交換会 開催報告と御礼

第三回淡水ガメ情報交換会は神戸市立須磨海浜水族園と認定 NPO 生態工房の共催で 2015 年 10 月 24 日(土)～25 日(日)に神戸市相楽園会館にて行われました。2 日間の開催で述べ 170 人の参加がありました。台湾国立屏東科技大学の陳添喜博士の特別講演の他、一般講演は、口頭発表が 20 題、ポスター発表が 8 題と盛況でした。特に今回は兵庫県内の各行政機関を中心にアカミガメ対策に関する取り組みや駆除に関する考え方等をお話いただきました。後の講演要旨集にそれらが掲載されておりますのでご覧ください。ただし、陳添喜博士にも要旨を依頼していたのですが、お忙しいようで間に合いませんでした。ここに私から今回の講演内容の大凡を紹介させていただきます。

博士の講演で最も驚かされたのは、台湾にアカミガメは導入されているものの、日本のように増加し、分布を拡大していないことでした。理由はタートルハンターの存在です。ペットや食用として中国で需要のある淡水ガメを根こそぎ捕獲する中国人タートルハンターがいるらしいのです。それがアカミガメの分布拡大や増殖を抑制させているらしいのです。一方で、台湾にはセマルハコガメ、ミナミイシガメやハナガメなどの淡水ガメが生息しますが、中国人タートルハンターの存在は、これら淡水ガメにとっては大きな脅威となっていることに間違いありません。特にセマルハコガメは、中心的なターゲットとされ、2006 年から 2015 年にかけてわかつていだけで 8318 個体のセマルハコガメが捕獲され、中国へ密輸されたと陳氏は話します。研究のため追跡していたカメを何度となく、タートルハンターたちに採取されてしまった経験を、批判を込めながら話してくれました。ここで誤解してはいけないことは、台湾で現在淡水ガメを食用とすることはなく、捕獲されたカメはすべて中国へ運ばれ消費されていることです。陳氏は”The Chinese are going to eat every turtle on Earth if they can (中国人は地球上のすべてのカメを食べつくす)”と訴え、タートルハンターの存在を非常に危惧していました。さらに中国の淡水ガメの受容は台湾だけでなく、日本の淡水ガメにも影響を与えています。ニホンイシガメ、ヤエヤマイシガメなどが中国に送られていることも明らかだということです。

以上が陳博士の講演の内容でした。次回の第四回淡水ガメ情報交換会は千葉で開催する予定です。どうか次回もご支援、ご協力をお願いいたします。

神戸市立須磨海浜水族園 亀崎直樹



2015 年 10 月 24-25 日 第三回淡水ガメ情報交換会 於 神戸市相楽園会館